芸術文化振興基金助成事業

U-18 阿波おどり・人形浄瑠璃 フェスティバル

開催日時

令和６年 10月 27日 (日)

開場　午後０時 30 分

開演　午後１時

会　場

阿波市交流防災拠点施設

アエルワ

入場無料

◆主催：徳島県

◆協力：徳島市教育委員会、阿波市教育委員会

◆後援：徳島新聞社、四国放送株式会社、NHK 徳島放送局、ケーブルテレビ徳島株式会社

U-18阿波おどり・人形浄瑠璃フェスティバル
プログラム

［12:30 開 場］

13:00～13:05　開　会

◆人形浄瑠璃◆

1　13:05～13:20　徳島県立城北高等学校 民芸部
「寿三人三番叟」

2　13:25～13:40　徳島市川内中学校 民芸部
「えびす舞 Ver.川内中」

3　13:45～14:10　徳島県立小松島西高等学校勝浦校 民芸部
「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」

4　14:15～14:30　徳島県立那賀高等学校 人形浄瑠璃部
「えびす舞」

5　14:35～14:50　平成座ジュニアクラブ＆川内北小学校人形浄瑠璃クラブ
「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」

6　14:55～15:15　兵庫県立淡路三原高等学校 郷土部
「増補大江山 戻り橋の段」

◆阿波おどり◆

7　15:20～15:30　徳島県立城西高等学校 阿波踊り部
「秋疾風（あきはやて）」

8　15:35～15:45　徳島県立徳島商業高等学校 阿波踊り部
「飛翔繚乱」

9　15:50～16:00　徳島県立鳴門高等学校 阿波踊り部
「阿波の伝統乱舞」

16:05～16:15　エンディング・閉　会

※上演時間は、進行具合で変更する場合があります。

ええけん!
ご案内
あわっ子
文化大使

司会・運営スタッフ
『あわっ子文化大使』

『あわっ子文化大使』とは…
あわ文化を次世代に伝承するとともに、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信できる中学生のリーダー

5 平成座ジュニアクラブ＆川内北小学校人形浄瑠璃クラブ

1997（平成9）年にPTAの会長であった平成座の藤本宗子（竹本友幸）座長が、阿波人形浄瑠璃を子供たちに伝えたいと社会文化クラブとして「川内北小学校人形浄瑠璃クラブ」を結成して27年になります。阿波人形浄瑠璃平成座は、小・中・高・大学・留学生・老人会など「出前人形浄瑠璃教室」は100回を超え開催。徳島県内はもとより北海道・ブラジル等で継承活動に取り組んでまいりました。このような活動が認められ、2013（平成25）年に、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟より平成座の活動「世界に伝えたい阿波人形浄瑠璃の魅力プロジェクト」は、100年後の子ども達に伝えたい活動として、「プロジェクト未来遺産2013」に登録されました。登録を機に「川内・藍住子ども人形浄瑠璃クラブ」を年齢も地域も広く希望する子供たちが入部できるように「平成座ジュニアクラブ」としました。夏の「徳島城博物館子ども浄瑠璃」公演は結成以来続け、本年で25回目を迎えます。分野別公演や川内町民文化祭に出演、徳島マラソンの応援もしています。昨年は、初めての試みとして、徳島商工会議所の阿波踊り連に参加させていただきました。昨年のＵ－１８フェスティバルでは、「伊達娘恋の緋鹿の子　火の見櫓の段」に挑戦し、初披露することができました。「平成座未来遺産登録10周年記念公演」にも出演し、徳島在住の6か国の方々にご覧いただき素晴らしい交流ができました。本年は、第78回阿波人形浄瑠璃夏期大会に出演。難しい演目を根気強く指導する平成座員、その指導を粘り強くお稽古している子どもたちの姿をうれしく思います。一生懸命に演じる「お七」にご声援をよろしくお願いいたします。

＊2018（平成30）年に開催した「平成座30周年記念誌発刊記念公演」や「平成座ジュニアクラブ」や「川内北小学校人形浄瑠璃クラブ」のお稽古の模様などNHKの「とく６徳島」で特集されたものが、「中学校音楽鑑賞用教材」（令和３年度 改訂版教育芸術社教科書）「受け継ぐ郷土の祭りや芸能」として紹介されています。

◆出演者

真楽 いずみ（中3）　樫原　雅樹（小6）
真楽 さつき（中2）　福井　望美（小4）
樫原　寛人（中2）　福井　明歩（小2）
辻本　愛萌（中1）

◆演目「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」

西鶴の好色五人女で有名な、八百屋お七を題材にした物語です。（紀　海音作）
お七の恋人吉祥院の小姓吉三郎は、天国の宝刀が見つからないので、死を覚悟してお七のところへ別れに行きます。お七の父八百屋九兵衛は借りた金が返せず、嫌がるお七に因果を含めて武兵衛を婿に取る事にしました。縁の下で聞いていた吉三郎は、書き置きを残して立ち去ります。たまたまお七は天国の刀を武兵衛が持っていることを知り、お杉の手を借りて奪い取ります。

上演しますのは、これからの場面です。お七は吉三郎のところにその刀を届けようとしますが、時は九つ（今の0時）江戸の木戸は締まっていることに気づきます。火あぶりの刑を覚悟で、火の見櫓に上がって半鐘を打ち鳴らし木戸を開かせば…。降りかかる雪の中、中振り袖姿のお七が、髪を振り乱し、櫓を見上げ、櫓に上がる途中、雪で滑り落ち、後ろを振り向き肩で息をする所は、見所で、舞踊の人形振りで有名な場所です。この物語のお七の父の八百屋九兵衛は、阿波藩吉野本町付近の生まれで、参勤交代で江戸に行き、住み着いたと言われています。お七の墓が野ざらしになっていることを知った、現在の徳島市川内町の豪商が持ち帰り、吉野本町の万福寺に安置されています。

徳島県教育委員会 高校教育課